種々のデンドリマーを鋳型とした サイズ制御パラジウムナノ粒子の合成と触媒機能

¹JST-ERATO,²東工大化生研,³国際基督教大 〇北澤啓和¹,幸福卓²,アルブレヒト建²,田旺帝³,今岡享稔²,山元公寿²

Synthesis and Catalytic Function of Size-Controlled Palladium Nanoparticles Using Various Dendrimers as a Template

 OHirokazu Kitazawa¹, Taku Kofuku², Ken Albrecht², Wang-Jae Chun³, Takane Imaoka², Kimihisa Yamamoto²
¹JST-ERATO, Japan
²Laboratory for Chemistry and Life Science, Tokyo Institute of Technorogy, Japan
³Graduate School of Arts and Sciences, International Christian University, Japan

[Abstract]

Precise control of the size, surface, and electron state of metal nanoparticles is important for revealing their catalytic function. In this study, Pd nanoparticles were synthesized using a fourth-generation dendritic phenylazomethine (TPM G4) and a fourth-generation polyamidoamine dendrimer (PAMAM-OH G4). We discuss the effect of template dendrimer on the catalytic function of Pd nanoparticles in Suzuki-Miyaura cross coupling reaction. As a result, we found that the catalytic activity of Pd nanoparticles using TPM G4 that has rigid structure as a template varied according to the reaction solvents in Suzuki-Miyaura cross coupling reaction.

【序】

ナノ粒子の触媒機能は、粒径・周囲環境・電子状態等により大きく異なるため、こ れらを精密に制御することは、触媒機能を理解する上で重要な課題である。ナノ粒子 の周囲環境による触媒機能への影響を厳密に比較・議論する上で、精密に粒径を制御 し合成することが重要で、その手法の一つとして、樹状高分子 (デンドリマー)を鋳 型とした合成法が知られている[1],[2]。本研究では、デンドリマーによる粒径の制御 合成法に着目し、更に、剛直で疎水的な骨格からなるフェニルアゾメチンデンドリマ - (TPM G4) 及び、柔軟で親水的な骨格からなるポリアミドアミンデンドリマー (PAMAM-OH G4) を鋳型とし、精密に粒径を揃えたデンドリマー内包 Pd ナノ粒子の 鈴木-宮浦カップリング反応における周囲環境 (溶媒)の触媒機能への影響を議論し た。

【方法 (実験・理論)】

TPM G4 に対する Pd(CH₃CN)₄(BF₄)₂の錯形成挙動を、UV-vis スペクトルを用いて評価した。TPM G4 に対し 60 当量の Pd(CH₃CN)₄(BF₄)₂を錯形成させ、NaBH₄を用いて 還元を行い、TPM G4 を鋳型として合成した Pd ナノ粒子 (Pd₆₀@TPM G4)の電子状態 を X 線光電子分光法、粒径を HAADF-STEM、内部構造を X 線吸収微細構造 (XAFS) を用いて評価した。また、PAMAM-OH G4 を鋳 型とした Pd ナノ粒子 (Pd₆₀@PAMAM-OH G4) の合成を既報に従い[3], [4]、PAMAM-OH G4 に 対し 60 当量の K₂PdCl₄を錯形成させ、NaBH₄ を用いて還元を行い、Pd₆₀@TPM G4 同様に各 種評価した。得られた Pd₆₀@TPM G4 及び Pd₆₀@PAMAM-OH G4 の鈴木-宮浦カップリン グ反応に対する触媒機能を評価した。

【結果・考察】

TPM G4 に対する Pd(CH₃CN)₄(BF₄)₂)の錯形 成挙動を、UV-vis タイトレーションを行い評価 した。得られたスペクトルにおいて、4 点の等 吸収点が確認できた (Fig. 1 (a))。等吸収点の変 化に要した Pd(CH₃CN)₄(BF₄)₂の当量数は、4,8, 16 及び 32 当量と、TPM G4 の各層のイミン数 4,8,16 及び 32 個と一致することから、 Pd(CH₃CN)₄(BF₄)₂は錯形成が内層の第1層目か ら外層の第4層目の順で 1:1 の放射状段階的に 錯形成していることを確認した (Fig. 1 (b))。

各々のデンドリマーを鋳型とした Pd ナノ粒 子の粒径を HAADF-STEM により評価し、ほぼ 同サイズの Pd₆₀@TPM G4 (1.3 ± 0.2 nm) 及び、 Pd₆₀@PAMAM-OH G4 (1.3 ± 0.3 nm) で得られ ていることを確認した。これらの触媒機能を各 種溶媒中で、鈴木-宮浦カップリング反応に用 いて比較した。その結果、プロトン性極性溶媒 中では Pd₆₀@PAMAM-OH G4、非プロトン性極 性溶媒中では Pd₆₀@TPM G4 の活性が各々有利 であることが見出された (Table. 1)。この触媒 活性の相違は、XAFS 等の結果から、各々のデ ンドリマーの骨格の相違による Pd ナノ粒子へ の周囲環境の影響が考えられる。

【参考文献】

[1] R. M. Crooks, M. Zhao, L. Sun, V. Cheehik, L. K. Christensen, *Acc. Chem. Res.* **34**, 181 (2001).

[2] K. Yamamoto, T. Imaoka, Acc. Chem. Res. 47, 1127 (2014).

[3] M. Zhao, R. M. Crooks, *Angew Chem. Int. Ed.* **38**, 364 (1999).

[4] Y. Li, M. A. El-Sayed, J. Phys. Chem. B 105, 8938 (2001).



Fig.1 (a) UV-vis titration of TPM G4 and $Pd(CH_3CN)_4(BF_4)_2$. (b) Stepwise radial complexation of TPM G4 and $Pd(CH_3CN)_4(BF_4)_2$.

Table. 1 Suzuki-Miyaura cross coupling reaction of arylhalide with phenylboronic acid using Pd₆₀@TPM G4 and Pd₆₀@PAMAM-OH G4 as catalysts.



Solvent	TOF [atom (Pd)-1 h-1]*	
	Pd ₆₀ @TPM	Pd ₆₀ @PAMAM-OH G4
EtOH	13745	18463
1, 4-Dioxane	699	1071
THF	3171	315
DMSO	646	437
Acetonitrile	5939	3269
DMF	1315	423
Acetone	727	119

*Yield obtained from GC. TOF (the turnover frequencies) values were determined on the basis of the yield of biphenyl.